

リハビリ・リレー通信事業について ～ネットワーク形成の取り組み～

仙台保健福祉事務所 地域保健福祉部
健康づくり支援班 技師 小原 陽子

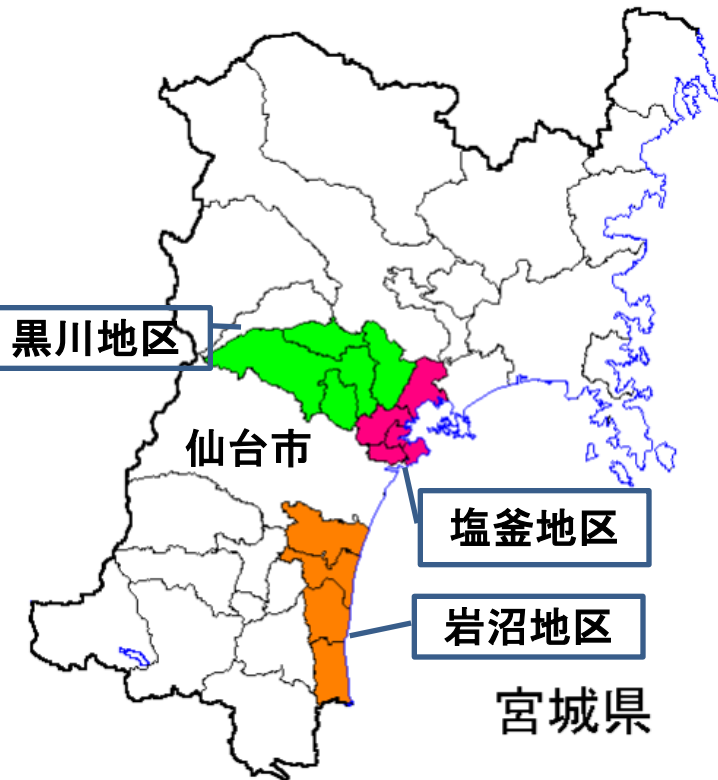
仙台保福管内の状況

(平成24年3月の状況)



- 圏域：仙台市に隣接する13市町村
- リハサービスが他圏域に比べて多い

仙台保福管内は施設が多い

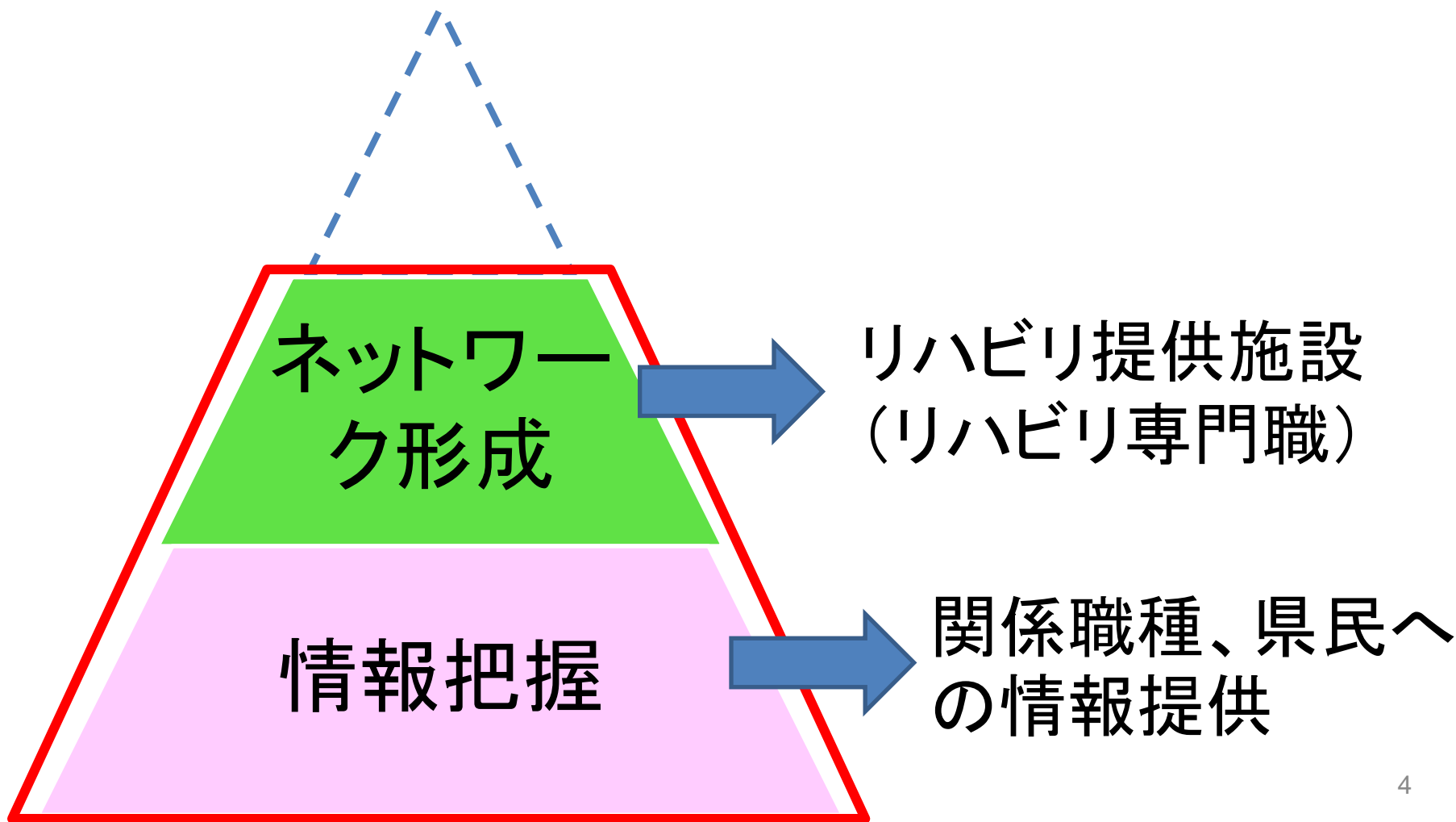


- リハビリ提供内容等の把握困難
- 施設間のネットワークが不十分

「リハビリ提供施設の特徴がわからない」

本事業のねらい

地域のリハビリ体制の強化

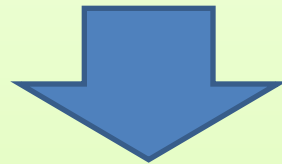


目的

リハビリ・リレー通信の作成を通し、情報把握、施設間のネットワーク形成、情報提供を図る。

対象施設

当所でリハビリ専門職の
在籍を確認している施設



83施設

(平成24年3月31日現在)

方法

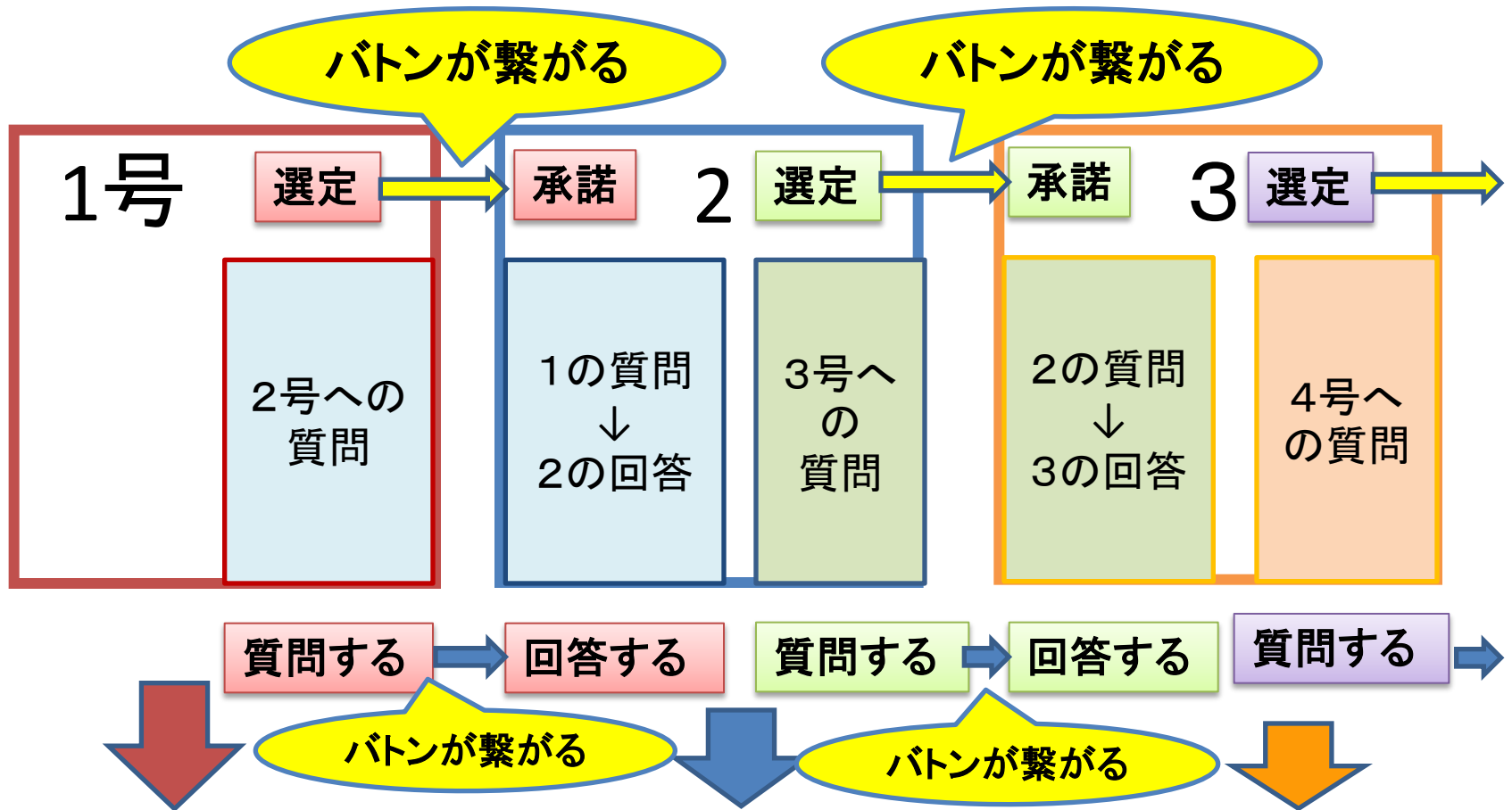
3地区で実施
(塩釜・岩沼・黒川)

掲載内容は、
施設自身で作成

毎月地区毎に
1施設の情報誌を作成

バトンリレーで
繋いでいます！

ネットワーク形成を促進する ボタンリレー方式の仕組み



施設が作成した原稿を当所が情報提供

[黒川地区]リハビリ・リレー通信 第2号

発行元： 宮城県仙台保健福祉事務所（塩釜保健所）健康づくり支援班 塩竈市北浜4丁目8-15 022-363-5503（直）

【今回の紹介施設】

公立黒川病院 です。

<一般病棟、外来、回復期スタッフ>



<通所リハビリ 訪問リハビリスタッフ>

◎私たちの施設の特徴◎

- 当院はベッド数 170 床(一般病棟 110 床、回復期リハビリテーション病棟 60 床)の病院です。
- 黒川郡大和町に位置し、晴れた日には病棟からは七ツ森がきれいに見えます。
- 病院の1階には地域住民の方が描かれた絵画が展示してあり、リハビリ室前には画家の児玉泰隆様より寄贈された大和町の作品を鑑賞でき、心がなごみます。
- 「すべては地域のみなさんのために」を理念とし急性期から回復期、在宅へと途切れのないリハビリを提供しております。
- リハビリテーションスタッフは理学療法士 17 名、作業療法士 10 名、言語聴覚士 3 名で医療保険(一般病棟、外来、回復期病棟)と介護保険(通所、訪問)を担っております。

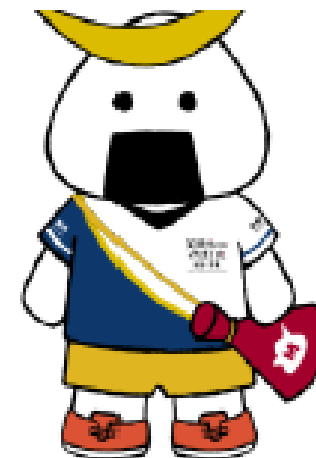
写真(タイトル付記)

施設の特徴

B

特記事項やお知らせ

H25年度の黒川連携の会では第1回医療・介護連携シンポジウムを開催。特別講演：香川県綾川町国民健康保険陶病院病院長の大原昌樹先生。講演内容：連携パス(介護パス含め)運用までの経緯、介護パス稼働後の課題。シンポジウム・座談会もあります。(9月14日(土)13:00~17:00 富谷町成田公民館大ホールにて) 詳細は事務局：公立黒川病院にお尋ねください。



仙台・宮城観光PR
キャラクター むすび丸

〈リハに関する連絡先〉

住所：〒981-3682 黒川郡大和町吉岡字西桜木 60

TEL：022-345-3101 (内線 193、163、336) FAX：022-345-3143

HP：<http://www.jadecom.or.jp/jadecomhp/kurokawa/>

リハビリに関する連絡先

C

前号の質問にお答えします
質問⇒回答

ボタンでつながろう
一問一答紹介リレー

前号 Q に お答えします

Q. 退院に向け、患者さんのリハビリテーションについての知識や技術を、本人・家族に移行（伝達）する場合、工夫していることがあれば、教えてください。

（仙台保健福祉事務所）



A. 普段のリハビリ状況・ADL 状況を実際に見学して頂いたり、面会時に現状の説明を行ったりしています。また退院前の家屋評価などで模擬的な手すりを使用し、手すり設置箇所の提案・福祉用具の提案を行います。退院前のサービス担当者会議では ADL 動作や退院後の生活の注意点を家族や関連スタッフへ説明を行い、必要に応じて実際に動作を確認して頂くように心掛けています。

（公立黒川病院）

コラム～日々の業務の中で感じたこと～

『当院での取り組み～CI 療法って何だろう？～』

今回は当院で取り組んでいる CI 療法についてお話したいと思います。CI 療法とは日本語では「麻痺側上肢集中訓練」と呼ばれています。主に脳卒中片麻痺の麻痺側上肢の治療を中心に発展し、麻痺していない側の上肢（健側上肢）を三角巾などで固定し、麻痺側上肢の使用を促すことで機能回復を目指す方法です。CI 療法には適応基準が設けられており、身の回りの動作が自立されている方、手首・指に動きが認められる方などが対象となります。1 日 5 時間（自主トレーニングを含む）の練習を 5 日×2 週間の計 10 日間行います。実に長く、集中したりハビリであるため、患者さんもヘトヘトになりますが、皆さん一生懸命取り組んで下さっています。現在は回復期病棟に入院されている患者さんへ提供しています。月に 1 回行っている英文抄読会で海外の新しい研究を報告し合い、患者さんにより良いリハビリが提供できるように日々励んでおります。地域在住の健康な方に対しては予防のための出前講座を実施し、病気になっても地域で安心してリハビリが受けられる病院であるようにこれからも一丸となって取り組んで参ります。

ボタンでつながろう

一問一答

～紹介リレー～



次回：第 3 号(5/1)は
介護老人保健施設
希望の杜
さんへボタンタッチ

●質問コーナー●

Q. 高次脳機能障害や認知症の方の転倒予防としてどんな工夫をしているか教えてください。
（公立黒川病院）

質問コーナー
次号への質問

コラム～日々の業務のなかで感じたこと～

情報提供方法

- ◇ホームページ
- ◇電子メール
- ◇介護保険の事業者集団指導
- ◇研修会など

本事業の進捗状況

(単位:施設数)

	H24 対象(a)	H27.1 リハ 不在(b)	H27.1 新たに 把握(c)	H27.1 対象 (d=a-b+c)	H27.1 作成(e)
塩釜地区	36	4	3	35	25
岩沼地区	33	4	3	32	21
黒川地区	14	1	7	20	20
合計	83	9	13	87	66

全体の進捗率75%

現在まで作成した66施設の内訳

リハビリ提供施設	数
病院	14
介護老人保健施設	16
診療所	2
訪問看護ステーション	9
特別養護老人ホーム	7
デイケア	2
デイサービス	8
障害児・者施設	6
行政	2
合計	66

様々なリハビリ
提供施設が
ある！

成果

◇**66施設**の特徴・提供内容を把握し、
関係職種や県民へ情報提供ができた。

◇新たに**13施設**を把握できた。

＜施設から＞

「連携のきっかけになった」 「コラムが参考になった」

「質問に対する回答が業務に活用できた。」

＜関係職種から＞

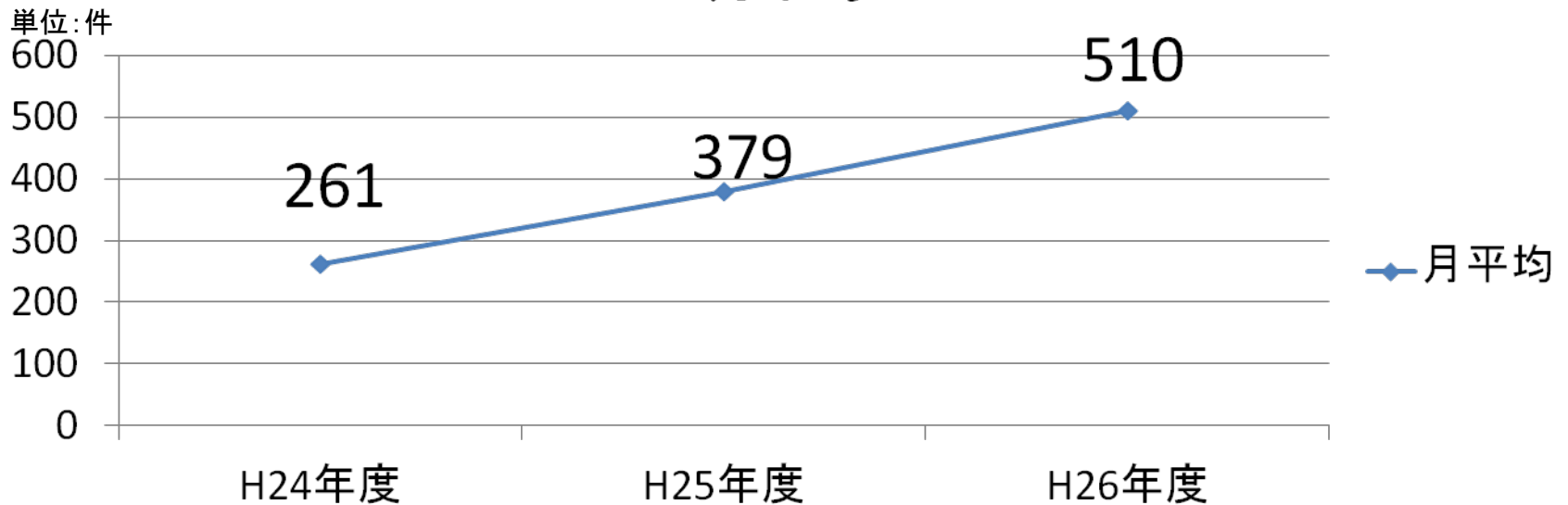
「施設の特徴がよくわかった」

「住民の転出の際に情報誌を活用した」

⇒施設や関係職種の**業務に役立てられている**

ホームページ閲覧数

月平均



	年計
平成26年度 (H26/4~H27/1)	5,102
平成25年度 (H25/4~H26/3)	4,553
平成24年度 (H24/11~H25/3)	1,304

本事業の達成度と今後の目指すところ

地域のリハビリ体制の強化

連携

今後は、連携に向けて事業展開！

ネットワーク形成

ここまでは、達成!!

情報把握

黒川地区は、バトンリレー終了!!

ネットワークの形成(顔の見える関係へ) ～情報交換会及び研修会～

地域リハビリテーション推進強化事業

参加費
無料

日時

平成27年3月11日(水)
午後6時から午後7時45分まで

場所

まほろばホール 会議室
(黒川郡大和町吉岡南2丁目4-14)

対象

○黒川地区リハビリ・リレー通信事業協力施設の
管理者, リハビリテーション専門職, 看護師,
医療ソーシャルワーカー等
○黒川郡内各町村高齢福祉担当課等の職員

講演

「地域包括ケアシステムにおける
リハビリテーション専門職に期待される役割」
～2025年の将来像からみえてくること～

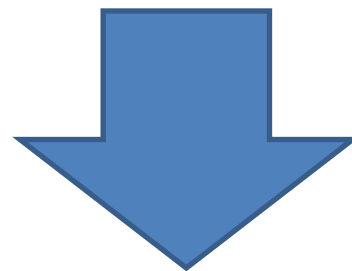
講師: 国立社会保障・人口問題研究所
社会保障基礎理論研究部
部長 **川越 雅弘 氏**

講師プロフィール

1986年3月	大阪大学工学部応用物理学科卒業
1987年3月	大阪大学工学部工学研究科情報制御応用物理専攻修了
1987年4月	川崎製鉄株式会社
1990年8月	個人株式会社
1997年1月	株式会社経営総合研究所
1998年4月	日本医師会総合政策研究機構
2006年11月	国立社会保障・人口問題研究所 [現職]
2012年2月	広島大学大学院保健学専攻保健工学課程後期修士課程卒業

地域包括ケア普及啓発研修会

リハビリ提供施設
リハビリ専門職員



顔の見える関係作りの
きっかけの場

<お申し込み>

別紙参加申込書により、ファクシミリにて申
し込み下さい。

締切り: 平成27年3月3日(火)

本研修会に関するお問い合わせ・申し込み先
吉城県社会福祉事務所 健康づくり支援班
TEL: 022-383-9803 FAX: 022-382-8181
E-mail: sdmfzke@ref.niyagi.jp

【会場案内】



本事業で得られた成果を有効活用するために

地域のリハビリ体制の強化

連携

ネットワーク形成

マッピング

情報整理

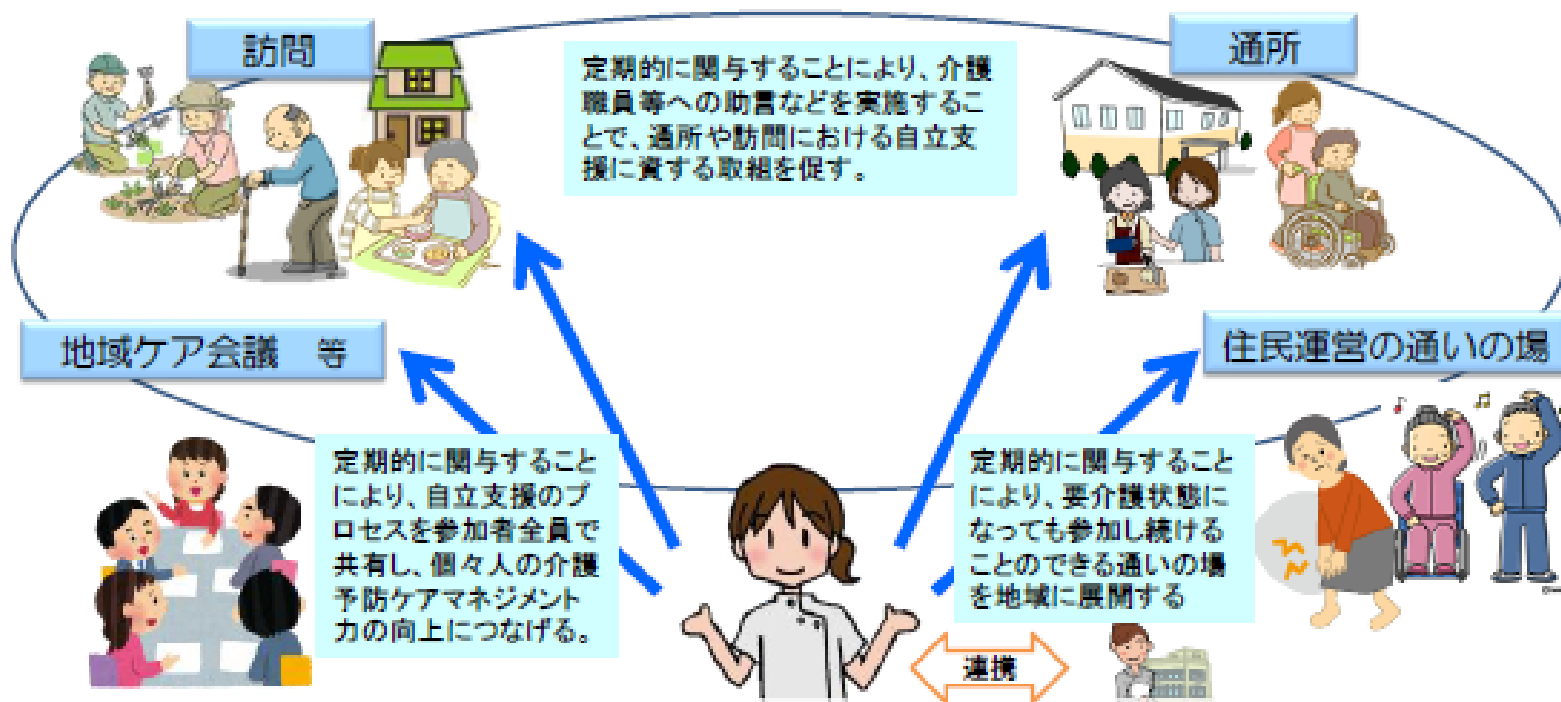
検索システム

情報把握

具体的な連携の目的

地域リハビリテーション活動支援事業の概要

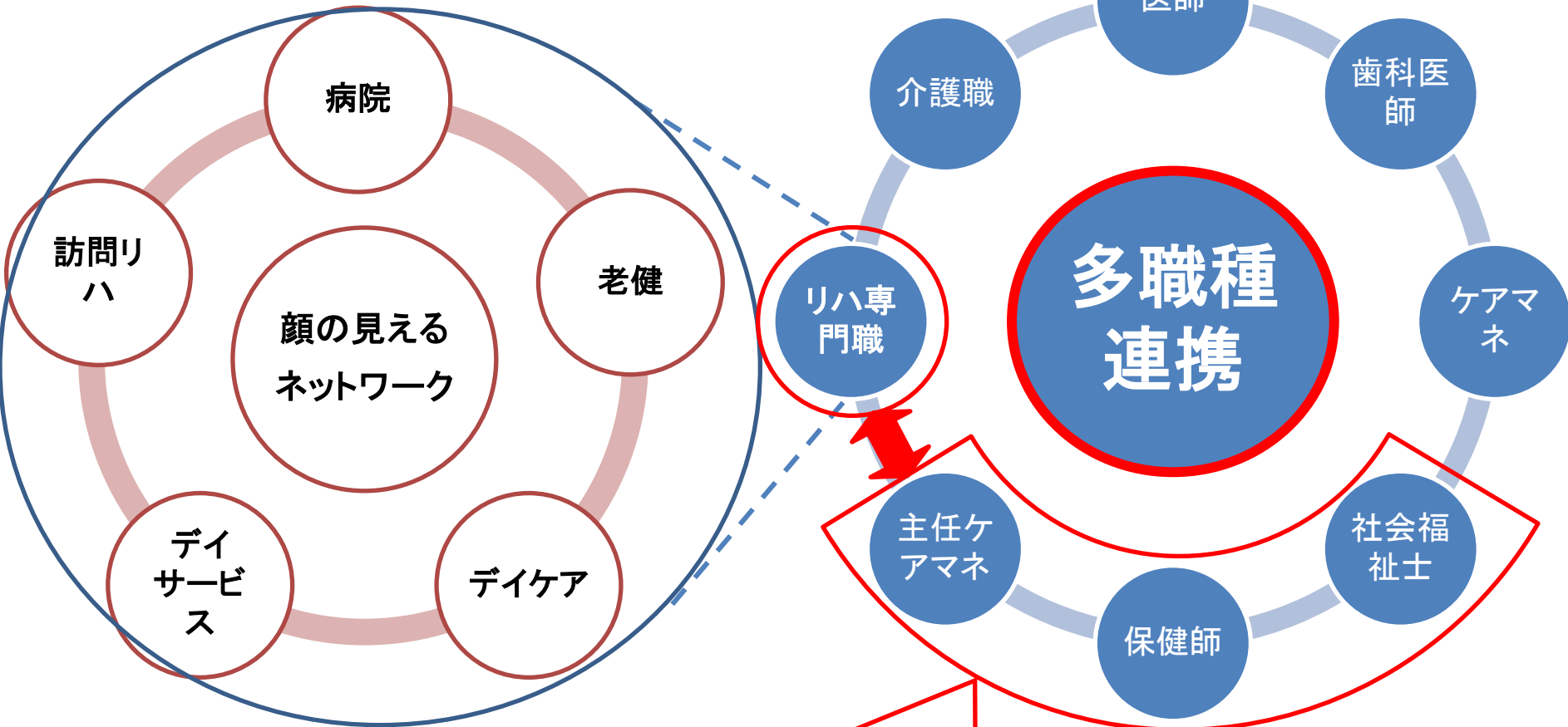
- 地域における介護予防の取組を機能強化するために、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等へのリハビリテーション専門職等の関与を促進する。



リハビリテーション専門職等は、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の集いの場等の介護予防の取組を地域包括支援センターと連携しながら総合的に支援する。

連携の対象

リハビリ・リレー通信事業
で得られた成果



地域包括支援センター

* 地域包括支援センターは、主任ケアマネージャー、保健師、社会福祉士が中心となり、総合的に高齢者をささえる機関です。